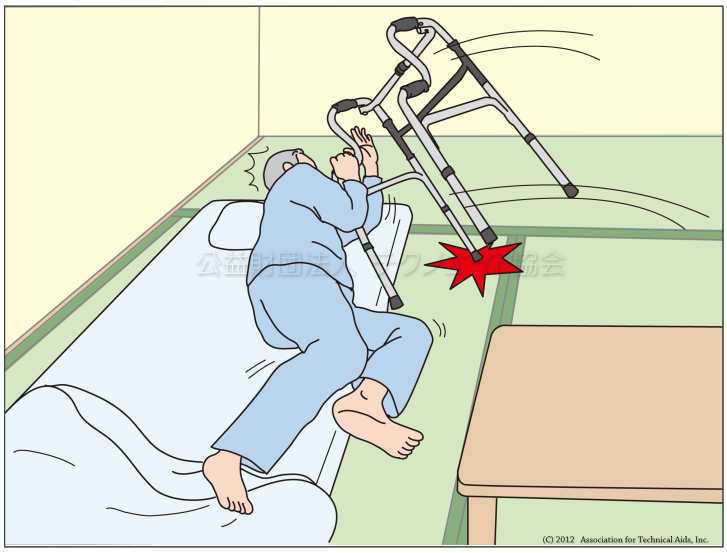
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：239

床からの立ち上がりに歩行器を使い、バランスを崩して転倒しそうになる

場面の説明

歩行器の片側に過度に力が加わったことで歩行器が傾いてしまい、本体ごと転倒しそうになった



利用シーン	起居・就寝 立ち座り
主な利用場所	寝室
介護保険の種目	歩行器
分類コード (CCTA95)	120603 (歩行器)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

布団からの立ち上がりに歩行器を手掛かりにして行うとした事例です。このような使い方を想定して製品化された歩行器もありますが、基本的には軽量に作られているので安定する使い方には限界があります。利用者の立ち上がり能力をしっかりと把握して、歩行器の代用ではなく床置き形手すりを利用する判断も必要でしょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：利用者の身体状況の変化を把握していなかった
モノ：想定以上の加重がかかり倒れた

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.